

関西大学環境都市工学部 正会員 ○秋山 孝正

1. はじめに

わが国は、少子高齢・人口減少社会の中にあつて、災害復興のために都市社会基盤の整備が必要である。このため、精神風土の復興を含めた都市システムの基本的理念を再構築する必要がある。さらに昨今の都市形成の基本的理念として、持続可能性 (sustainability) が提唱されており、エネルギー消費を考慮した低炭素社会型の都市システム構築に関する議論が重要であると思われる。

そのため本稿では、災害復興のための都市システムの構築に関する基本的な計画理念の形成を目的とする。すなわち、持続可能な都市システムを、災害復興にける都市市民の生活様式と都市システム基盤との有機的構成から検討する。ここでは、特に密教思想に基づいて、都市社会の理念形成に関する具体的提案を行う。

2. 都市システム構築における公共意識

都市システム計画 (社会資本計画) は通常、都市社会の基盤形成の計画であり、①計画代替案の作成、②計画代替案の合理的評価を踏まえて、計画案が策定される。さらに、③住民参画と合意形成過程を経て、事業化に至ると考えられる。このとき科学的な分析を用いることで、「合理的」判断が実行され、この意味で説明責任 (accountability) を果たすと考えるのが一般的であろう。しかしながら、このとき、個人の利益と社会の利益が必ずしも一致しない社会的ジレンマの状態において、いかに対応すべきかを考える。説得により都市環境の持続可能性に関する公共意識を高揚し、合意形成を達成することが妥当な方法論であるだろうかを考える。

これに対して、計画理念として仏教思想をとりあげる。ここで、大乘仏教とは、従来の仏教が修行者本人の個人の救い (解脱) のみを求めていたのに対して、(救いを求める大衆の願いも受けて) 自分ばかりでなく多くの人を救うものが真の仏教だとして、その教えを 大乘 (大きな乗り物) に譬えたものである。これより、釈迦に由来しない多くの経典を創作したため、自己の解脱のみを目指す保守派 (上座部) 大乘非仏説という批判の声も上がっ

た。しかしながら、仏陀は限りない慈悲をもって万人を救済する。仏陀の慈悲と智慧を信ずる以上は、菩薩の道は誰にでも開けるはずであると考えられるものである¹⁾²⁾。

このとき、宗教的完成 (悟り) を得た仏を「如来」と称し、求道者の意味で用いられる「菩薩」がある。自分とは仏となることを放棄して、あくまでも「菩薩」のまま、真理をたずさえてこの世に出現して、一切衆生のために、慈悲利他行を実践しながら、真理に導く (救済する) という思想である。災害復興という社会的な利益を与える都市システム計画理念として、利他行・菩薩行としての公共意識が必要不可欠であるように思われる。

3. 密教思想による都市システム構成

宗教的な絶対の真理は、言語表現を絶ったところに存在するという見方 (言語同断) がある³⁾。これより、大乘仏教では四智を説く³⁾⁴⁾。①大円鏡智、②平等性智、③妙観察智、④成所作智である。一方、密教ではこれに、⑤法界体性智を加えて五智とする。ここで、①大円鏡智は、鏡が現実世界に存在する一切の事物を映し出すように、現実世界的一切を包含する絶対の智慧である。②平等性智は、現実世界に存在する千差万別の事物の中から共通性・均質性などの平等な面を重点的にみる智慧である。③妙観察智は、一切の事物のなかに異質的なものを読み取っていく知恵である。④成所作智は、一切の事物の活動的な性格のもとになる知恵である。これらの性質をすべて備えたものが、⑤法界体性智とされる⁵⁾。

密教の思想において、この世界観を具体的な姿として図像化したものがマンダラである。マンダラは、サンスクリット語の「全体」「円」「集合」語源的には「本質を有するもの」「完成されたもの」である。したがって、密教における「到達したい憧れの仏の世界」の全体を表現したものがマンダラであり、仏の世界=宇宙の本来の姿 (宇宙の全体図) を表象するものである。

両界マンダラは、胎蔵マンダラと金剛界マンダラで構成される⁶⁾。この中心的思想は、表—1に示す五智に対応している。またマンダラにおける空間的位置 (東・西・

南・北) や色彩 (青・赤・黄・白・緑 (黒)) あるいは現象 (地・水・火・風・空) が規定されている。このため、宇宙のすべては5種類の性質で構成される。つまり、宇宙の精神面・物質面を表す5種類の様相である。人間も宇宙の一部であり、人間の身体も五大で構成される。また、五仏の色彩は、美的表現ではなく思想表現である。

胎蔵マンダラの中台八葉院の五仏は、金剛界マンダラの五仏と名称は異なるが対応して構成されている⁵⁾。図-1は両者の関係を示したものである。

4. 災害復興のための都市システム構成

ここでは、両界マンダラの五大の意として、上記の地・水・火・風・空の性質をとりあげ、両界マンダラの「理」「智」に対応した都市システム構築理念を検討する⁶⁾。

精神風土の復興として、「理」を示す胎蔵マンダラの構成を検討する。ここで、①地は、ひとびとの生活基盤の確保 (安心・安全)、②水は、交流・コミュニケーション、③火は、ひとびとの活力・希望、④風は、都市精神風土の構成に対応づける。これは、都市のカウンセリングによる精神風土の回復を目指すものである⁷⁾。したがって、⑤空として、都市精神風土の再生を目指している。

一方で災害復興に関する知恵と実践 (智) を表わす金剛界マンダラの構成においては、①地は、都市システムのベースとなる都市基盤 (都市インフラ)、②水は、移動 (交通・通信) 機能、③火は、都市活動の場 (都市施設)、④風は、都市環境・自然環境に対応すると考えた。最終的な目標として、⑤空は、持続可能な都市社会の実現である。この金剛界マンダラの構成を図-2に示している。

これは、宗教的に期待される法界体性智 (仏の境地への都市再生) の思想的背景を有するものと考えられる。

5. おわりに

本稿では、災害復興のための都市システムに関する計画理念形成を密教思想の視点から検討した。これより、①都市システムの公共計画理念の再構築は、菩薩行としての公共意識が重要である、②マンダラの構成に基づいて精神風土を包含した災害復興理念の形成が可能であることがわかった。本稿は、関連する都市システム計画の理念形成を目指した試論である。したがって今後、他の都市システム計画に対する具体的な適用のためには、関連する思想の関する一層の整理が必要である。

表-1 両界曼荼羅と五智の関係

	五 智	如来部 (金剛界)	如来部 (胎蔵界)
		自性輪身	自性輪身
中 尊	法界体性智	大日如来	大日如来
東 尊	大円鏡智	阿閼如来	宝幢如来
南 尊	平等智	宝生如来	開敷華王如来
西 尊	妙觀察智	無量寿如来	無量寿如来
北 尊	成所作智	不空成就如来	天鼓雷音如来

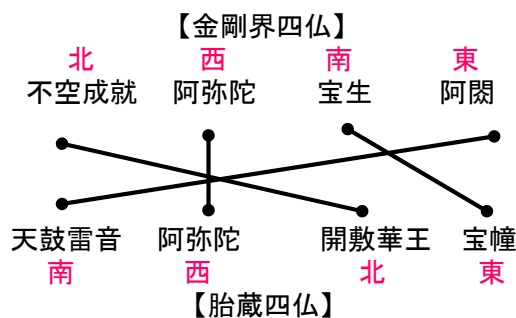


図-2 両界曼荼羅の四仏の相互関係

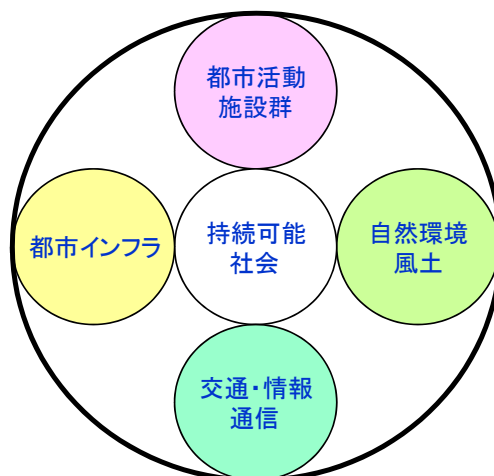


図-2 災害復興の都市システム (金剛界)

参考文献

- 1) 松長有慶：現代の宗教¹⁴⁾ 仏教と科学, 岩波書店, 1997.
- 2) 高神覚昇：般若心経講義, 角川文庫, 1952.
- 3) 松長有慶：密教, 岩波新書, 1991.
- 4) 金岡秀友：密教の哲学, 講談社学術文庫, 1989.
- 5) 松長有慶編：曼荼羅 色と形の意味するもの, 朝日カルチャーブックス 19, 大阪書籍, 1983.
- 6) 佐佐木綱編著：風土分析と地域計画, 地域交通計画研究所, 1985.
- 7) 秋山孝正：阪神大震災における災害心理と都市復興, 土木計画学研究・講演集, No.18(2), pp.597-600, 1995.